

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201297		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条2丁目5-20		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201297-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々がご本人のペースで安心してゆっくり過ごせる様に、居室は広くベッド、洗面台、トイレ、消灯台、チェストを各居室に完備し、居室内の壁にはご家族や知人の方との写真、誕生会、行事の写真飾っている。共用の玄関ホールやリビングの壁にも、書道や描いた絵を飾り、明るくゆったり生活が送れるように心がけている。利用者の誕生会には、嗜好に合わせた食事や出勤などし、他の利用者も職員も全員で誕生会を特別な日として大切にお祝いしている。外出する機会を多く持ち、外食や買い物、お花見、天気の良い日は畑作業や散歩、ウッドデッキに出て日光浴やティータイムをし、楽しく張り合いのある生活を送れるように取り組んでいる。年に一度の夏祭りには、利用者と利用者家族を招待し一緒に夏祭りを楽しんで頂いている。週に一回の訪問看護と2週に一回の訪問診療の他、利用者の体調不良の時には協力病院へ連絡し必要に応じて受診できる体制になっている、利用者が安心して生活して頂ける様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑が豊富な札幌市郊外に位置する、社会福祉法人が経営するグループホームである。同法人は特養や老人保険施設、グループホーム等を多数経営している。当事業所以外にも同法人のグループホームが複数同じ敷地内に位置していることから、運営推進会議や避難訓練、夏祭り等の行事を共同で行うことができる。建物はログハウス風の木を基調とする落ち着いたモダンな造りで、一階建ての建物は天井が高く、全体に広々とした余裕のある造りとなっている。建物内は明るいピンクで統一され、全体に明るく楽しい雰囲気である。各居室にはトイレと洗面台、ベッド、床頭台、タンスが備え付けられている。運営に関する利用者、家族等の意見を大事にしており、毎年1回、全事業所で、家族アンケートを行いサービスについての評価や意見をいただいているが、当事業所は特に良好な内容で、家族から非常に好意的な評価をいただいている。職員は一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いもゆったりと優しく、利用者をせかすような場面はない。毎日の食事は委託事業者からのメニューと食材であるが、時々は納入をストップしてレストランやうどん屋で外食したり、ピザや寿司、焼き立てパンの出前等を頼んでいる。誕生日には利用者の好きなものを提供し、利用者も、食事の下準備や豆の筋とり、食後の下膳などを職員と一緒に出来る範囲で手伝っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念は、壁に掲示し、会議などで年に一度確認する機会を設けている。施設独自のケア目標「入居者様の行動を把握し目配り気配りする」とし、職員間で気をつけ、毎日のケアに努めている。	「グループホームふぁみりあ施設理念」の「基本理念及び方針」で、「地域の中でその人らしく生活出来る」旨の文章が明文化されているが、職員全員が確認する場面は特に設けられていない。	全職員が、地域密着型サービスの意義を踏まえた「基本方針理念及び方針」を確認する場面を設け、共有し意識づけていくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩中に近隣の子供達と挨拶を交わしたり、事業所で行う夏祭りには、地域住民の方々をご招待し交流を深めている。近隣の小学校の児童が年に数回来訪し歌や音楽演奏、踊りの披露や運動会を見に出かけるなど交流をしている。クリスマス会には、退居した利用者の知人の方々が歌と音楽を披露に来訪されている。	町内会に入会し、運営推進会議等の機会に、町内会長や地域の役員に事業所合同の行事を案内している。今年の夏祭りは地域の方が20人以上参加し、利用者や家族と楽しんでいる。また、小学生が帰り道で、散歩中の利用者に挨拶し、利用者も運動会に行つて応援する等の交流がある。近所の方々にお花を戴くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に高齢者の福祉施設が多いため、高齢者が一人で散歩をしている時には気をつけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、施設の現状報告、防火訓練の報告、研修など議題に合わせた話し合いをしている。議事録は全ご家族へ郵送にて報告をしている。他事業所の休止に伴い心配するご家族もいたが、設備環境面で安心して生活できる環境が難しいことの説明をした。	2か月毎に、茨戸ふぁみりあ合同の運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、長寿会役員、有識者、家族等が参加し、事業所からの報告事項や様々なテーマについて話し合い、外部評価についても報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市や区のグループホーム管理者連絡会に参加し情報を得ている。何か相談がある時には、統括管理者が行政と連絡し相談をしている。	行政との連絡は、主に統括管理者が代表して行っているが、管理者も毎月、直接或は電話で市の担当者と連絡を取り、可能な限り管理者会議に出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルをもとに、禁止の対象となる具体的な行為をしないように周知している。北海道認知症グループホーム協会の「認知症」と「人」の権利をみんな考えるの小冊子を職員へ配布、外部研修、施設内研修を行い、職員間での意識を高めている。玄関は日中は施錠せずセンサーで対応し、夜間のみ施錠している。	身体拘束マニュアルが整備されており「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」11項目については、採用時に説明しており、休憩室と相談室に掲示しているが用紙が小さく、確認する機会には特に設けられていない。玄関は日中は施錠せず、職員が利用者の安全に配慮している。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」11項目を、全職員が正しく理解するため、休憩室や相談室に掲示した11項目を大きく見やすいものに変更し、毎月のカンファレンスや研修でも確認する等の取組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に小冊子を配布、施設内研修を行い虐待防止に努めている。声かけなどに注意し心理的な虐待の防止に努めている。入浴時や更衣の時など皮膚の変色の確認をしている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	諸制度についての相談などは管理者が対応している。運営推進会議で研修会を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に、施設利用についての説明をし、ご本人とご家族の不安や疑問点を確認している。契約時にも再度確認をし、契約書・重要事項説明書の説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族にアンケートを実施し、結果をもとに意見や要望に沿えるようにしている。ご家族の面会時に、利用者の近況報告をした際に機会を設け、意見・要望を会議やミーティングで話し合い対応している。	利用者や家族の意見は「連絡ノート」で把握している。毎年1回、法人の全事業所で家族アンケートを行いサービスについての評価や意見をいただいている。結果は各事業所にフィードバックされており、当事業所は特に好意的な評価を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括管理者が職員との個人面談を行い、意見などを聞く機会を設けている。管理者はミーティングや会議、連絡帳を活用し、日々の業務の改善、意見や提案を反映できるように取り組んでいる。	毎年、全事業所の職員に異動も含めて職員の希望を聞く仕組みになっており、統括管理者が職員の個人面談をして勤務体制等の意見や要望を聞いている。毎月のフロアー会議でも職員が活発に意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況などを把握し、統括管理者へ報告。統括管理者は、職員と個人面談を行い勤務状況や希望などを確認し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修、施設内研修など、より多くの職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区のグループホーム管理者連絡会に参加し、情報交換や職員研修など、サービス向上の取り組みに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問時や見学時に、本人の不安なことや要望などをゆっくり時間をかけて聞き、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用をする前に、施設見学や自宅訪問を行い面談をしている。家族の不安や要望について確認し、自宅などの生活が入居しても続けられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や自宅訪問時に得た情報などから、必要とされる支援を判断し、よりよいサービスを利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々に応じた家事作業の分担(洗濯物たみ、畑作業、食器荒いなど)を利用者と確認し職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、居室でゆっくりとした時間を過ごして頂き、ご本人の様子を必ずお伝えしている。ご家族に電話連絡をして相談や近況報告し合い、本人を支えていけるようにしている。年に一度の夏祭りに家族を招待し利用者と一緒に楽しむ機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	宗教活動での知人の方が面会、電話連絡、交流が継続してできるようにしている。	入居してから長くなると家族以外の訪問は少なくなるが、今年入居した利用者には、知人や宗教関係の方が何度も訪問し、居室でお茶を飲みながらゆっくり話をしている。お正月やお墓参り等の行事には、2、3人の利用者が家族と過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集まり利用者全員が参加できるゲームや体操を毎日行い、大きな声で笑いながら、利用者も職員も楽しめるようにしている。利用者同士の関係を把握し、関係が悪くならないように、何かあればすぐに職員が間に入り対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に、終了してもいつでも施設へ立ち寄って頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報やフェイスシートを見て、本人の生活歴に合わせた希望や意向を、日々の生活の中から汲みとるように努めている。困難な場合であっても表情や仕草など、ご本人の意向をできる限り叶えられるようにしている。	毎月のカンファレンスで全職員が利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。また、生活(暮らし)アセスメントシートも毎年定期的に更新し、利用者の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族から、今までの生活歴や暮らし方、生活環境などの情報を頂き、利用していたサービス機関から情報を得て、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調の変化や状態を記録し、毎日朝と夕のミーティングにて情報を共有している。他に連絡帳の活用と、毎月一回の会議の中で利用者一人ひとりの現状を話し合い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行い、モニタリングや問題点を検討し、3ヵ月毎に見直しをしている。ご本人と家族の意向も反映できるように作成している。家族の面会時に要望を確認している。	利用開始時に介護計画を作成し、1か月で見直し、その後は3か月毎に見直ししている。状態が変化した場合は3か月以内でも現状に即して柔軟に見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調の変化や状態を記録し、ミーティングや会議にて職員と意見や情報を共有し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院との訪問診療や受診、訪問看護との連携により、利用者の変化するニーズに合わせて、利用者が安心して生活ができる医療体制になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などの外出や外食、買い物、近隣の公園へ散歩、近隣の小学校との交流など、楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の前に、かかりつけ医を本人と家族に確認し選択して頂いている。協力病院の内科、精神科、皮膚科、歯科の訪問診療と受診を受けられる体制になっている。その他の科は、施設対応やご家族のご協力を得て受診して頂く時もある。	入所時に利用者・家族に確認し、現在は全員が協力医療機関の内科・精神科の訪問診療を受診し、医療情報は「情報提供書」で家族及び全職員が共有している。従来のかかりつけ医の受診支援は原則家族対応だが、希望に応じて事業所でも柔軟に対応している。	

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護を受け利用者の状態を報告している。状態に何か変化があった時には、すぐに連絡をし、主治医の指示のもと医療機関に受診するなど、連絡体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に医師、訪問看護師などの医療機関と連携をし、情報を共有している。体調が安定し退院の許可があれば、すぐに退院できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応に係る指針の説明と同意をご家族より得ている。 入院時には、家族と話し合いを行い、主治医、訪問看護師とよく相談し、今後の方向性を考え話し合い対応している。	入居時に、家族・利用者に「重度化した場合における対応に係わる指針」を示して署名捺印を得ている。現状では看取りは行わないが、同法人経営の特別養護老人ホームがあり、協力医療機関の主治医も含めて家族と相談しながら希望に沿えるよう方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時などのマニュアルをもとに、ミーティングや会議で確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を実施(夜間想定2回、日中想定1回)そのうち1回は、消防署、消防団、地域住民の方が参加をした夜間想定避難訓練を行う。防災対策会議を定期的に行い、備蓄品の確保や災害対策について話し合い取り組んでいる。	茨戸ふぁみりあ合同の自主避難訓練を夜・昼間想定で計2回、消防署、消防団、地域住民が参加する夜間想定訓練1回が毎年開催されている。今年度は、法人内での異動等の関係から、訓練の実施が遅れているが年度内に実施する予定である。職員の救急救命訓練や災害対策についても整備が進んでいる。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や他の利用者が不快な思いをしないように、守秘気味を守り、表情や言動に十分注意し声かけをしている。	職員は利用者のプライドや尊厳を重視し、利用者への呼びかけは「名字」にさん付けで優しく接している。個人ファイル等の保管は事務所ロッカーで安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や今何をしたいのかななどを聞き、本人の希望に添えるように、言葉かけや対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を確認し、散歩や絵を描く利用者、将棋、ゲーム、テレビの前で野球観戦など一人ひとりの趣味やしたいことを大切に、無理強いをしないように心かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の散髪、外出時の洋服選びやお化粧、髭剃りなど、本人の好みに合わせておしゃれができるようにしている。本人の希望で家族と美容室へ外出される方もいる。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と献立は委託業者に依頼し、利用者の嗜好に合わせた献立を委託業者と連携し提供している。いなり寿司作り、おはぎ作り、ホットプレートを使用したもち作り、焼きそばなど利用者と一緒に作り、準備や後片付けをしている。利用者と畑で収穫したトマト、枝豆、茄子など食事の時に提供している。	委託事業者からメニューと食材が配達されているが、時々は納入をストップしてレストランやうどん屋で外食したり、ピザや寿司、焼き立てパンの出前等を頼んでいる。誕生日には利用者の好きなものを提供している。利用者は、食事の下準備や豆の筋とり、食後の下膳など出来る範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食べられる量、盛り付け、形態を工夫している。水分は毎食の他に、入浴後、午前午後のティータイム、レクリエーション後など水分補給しているが、利用者の体調に応じて、水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い義歯洗浄とうがいをしている。ご本人のできることはして頂き、解らないこととできないことは、介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のパターンや行動、本人の状態に合わせて、トイレでの排泄介助をしている。	生活アセスメントシートに排泄を記録している。全居室にトイレが設置されているが、自立している利用者でも注意が必要な場合は確認して記録している。排尿の間隔がわかりづらい場合は「お部屋へ戻りましょう」と誘導し失敗の無いようケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を嫌がる利用者もいるが、水分補給をこまめに行い、歩く機会や毎日の体操、運動への声かけをし、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回午前午後の入浴。入浴時に拒否した時にはシャワー浴対応をしている。個々に合わせた好みのお湯の温度、入浴剤、歌を唄うなど楽しくゆっくり入浴ができるようにしている。	月木と火金の午前と午後に1人平均週に2回程度入浴している。季節の変わり目などで拒否が見られる場合もあるが日にちを替えたり時間をずらすなど柔軟な対応をしている。お湯は午後から入れ替え、職員と歌ったり会話しながら楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や生活習慣に合わせて、ベッドやソファなど安心できる所で昼寝をしたり、ラジオや音楽鑑賞などで休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを常時確認できるようにファイルし、周知している。薬の変更があった時には、受診記録や連絡ノートに記載し、ミーティングで報告し全職員がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの楽しみごとに合わせて、裁縫、将棋、書道、トランプ、絵を描くこと、テレビで野球観戦、散歩などをできるように支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事担当を決め、季節に合わせた行事を月に1回計画し、外食、買い物、お花見へ出かけている。天気の良い日には、外に出て散歩や中庭でティータイム、バーベキューをし、外出の機会を多くとれるようにしている。ご家族とお墓参りに出かける利用者もいる。	日々の散歩は、車椅子の利用者も一緒に事業所周辺の畑や花壇を見たり、外出行事で百合が原公園や篠路神社の花見や、ロイズやシャトレーゼでの外食を楽しんでいる。冬場は外出の機会が少なくなるが、家族の協力を得て美容室に行ったり、買い物や外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かったお金を職員が管理している。外出先で買いたい物があつた時には、いつでも使用できるようにしている。手元にお金がないと不安になってしまう利用者には所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方と手紙や電話連絡ができるようにしている。本人が携帯電話を所持され、いつでも家族と連絡が取れるよう家族からの協力も頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールやリビング、廊下の壁には、利用者の書道や絵画などの作品を掲示、季節感を取り入れた装飾や写真で飾り、明るく居心地の良い空間を心かけている。	広い廊下に高い天井、広々とした共有空間に利用者が集い、一人ひとり好みのソファや椅子に腰かけてくつろいでいる。テレビやCDラジカセが備え付けられ、ぬいぐるみや誕生日の写真、利用者の作品等が飾られている。大きな窓から庭が一望でき、デッキからのスロープで庭に楽に降りられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングのソファで読者や絵画、日光浴、新聞を見るなど、くつろいで頂けるようなスペースがある。利用者同士や独りの時間を過ごして頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人と家族と相談をし、在宅で使い慣れたタンスやソファなどの家具、日用品を持ってこれ使用して頂いている。居心地よく過ごせるように、居室の壁にはご家族との写真や行事の写真、誕生会の時の写真などを貼っている。	居室にはトイレと洗面台、ベッド、床頭台、タンスが備え付けられている。利用者ごとにテレビや鏡、アルバムや家族の写真など昔なじみの物品を持ち込み安心して過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることわかることに重視し、一人ひとりに合わせた声かけや見守りを心かけている。できないことやわからない時は介助をする時もある。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

作成日：平成 29年 11月 20日

市町村受理日：平成 29年 11月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念について、理念は作成されているが、理念を確認する事や職員が共有できているか。	地域密着型サービスの理念について、職員間で共有し実践につなげる。	理念は、玄関の壁に掲示し、縮小したものを全職員へ配布している。その他に理念を大きく拡大したものを掲示していく。	3ヶ月
2	6	身体拘束廃止についての、禁止となる具体的な行為11項目について、どの行為が身体拘束となるかを正しく理解出来ているかが重要なので、再度11項目の内容の理解を深める。	禁止となる具体的な行為11項目を正しく理解する。	禁止となる11項目について、研修や会議で理解を深めていく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。